

理事長あいさつ

第14回DPCホスピス祭りへご参加いただきありがとうございました

5月22日の第14回DPCホスピス祭りへのご協力とご参加に心より感謝申し上げます。

今年も無事に祭りを終えることができました。皆さまのおかげです。

もう14年になるのかと思うと感無量です。14年という年月は、生まれた子供が中学生に、中学生は社会人になる歳月です。

この歳月を地道に積み重ねることが人生なのかもしれません。人生には、入学、卒業、就職、結婚など大きな転機もありますが、基本は地道な毎日の積み重ねであり、その積み重ねの中に人は幸せを見るのではないのでしょうか。

そして、その平凡な日常にアクセントを付けるのが祭りではないのでしょうか。

みんなで苦労してみんなで楽しむ。汗を流せば流すほど楽しめるのが祭りです。

そして、祭りには旗振り役が必要です。「医療法人どちペインクリニックのホスピスを支援する市民の会」があるからこそ、DPCホスピス祭りが続き成長しているのです。

「諏訪の御柱」「祇園祭り」「神田祭り」だって、毎回行うことに変わりはありません。むしろ、如何に前例を踏襲するかが大切にされているのではないのでしょうか。

「DPCホスピス祭り」もまた前例を踏襲しつつ、新しいことも取り入れていくことが大切だと思います。金魚すくいやミニ新幹線を楽しんでくれた子供たちが成人し結婚して、また子供を連れてきてくれている。そんな祭りになってきたことをとても喜んでいます。

2016年8月

医療法人 どちペインクリニック

理事長 土地邦彦



つくしんぼ31号編集後記

“輝け！いのち 平和を守れ、未来につなぐ笑顔の輪”のテーマのもと、「第14回DPCホスピス祭り」が盛大に開催されました。今年も多くのボランティアの方々また来場者の皆様の笑顔に出会える祭りとなりました。準備段階では2回の実行委員会を経て、バザー品の提供の呼びかけやマスメディアを使った宣伝活動など、本当に沢山のご支援に支えられました。

また、今年は数日前から“当日は好天”という嬉しい週間天気予報で、私たちの準備を後押ししてくれました。初めてお祭りに来たという方には「こんなに盛大だとは思わなかった。」と言う嬉しい声も聞かれ、新しい参加者が多く来場されたのも今年の特徴だったと思います。来年はさらに多くの人の輪が広がる祭りにしたいと、皆様の声援に勇気づけられた一日でした。ご協力、ご参加本当にありがとうございました。またぜひ来年のお越しをお待ちしています。

医療法人どちペインクリニックの
ホスピスを支援する市民の会だより
つくしんぼ～31号～

山梨県中央市成島2439-1 玉穂ふれあい診療所内
TEL055-278-5670 <http://www.dpc-hos.or.jp>

医療法人どちペインクリニックのホスピスを支援する市民の会
代表 吉田永正

編集委員

小田切佳仁 井上三紀子
小澤敏幸 佐野しげ子
五味亜紀子 田邊玲子
佐野利恵子

会費の納入がまだお済みではない方は、この機会にぜひご協力お願い致します。

つくしんぼ

～第31号～

DPCのホスピスを支援する

市民の会だより

-ホスピスを市民の手で-

ホスピス祭りありがとうございました

第1回目から数えてもう14回になります。回を重ねるごとに参加して下さる方やボランティアの方々がだんだん増えてきました。まことにありがたいこと誇れることです。

今年も地元の方々 遠く関東関西からかわいい幼稚園児から 大ベテランのお元気なご婦人に至るまで 多くの方々の尊い魂の叫びあいによって 祭りのテーマである”輝けいのち”にふさわしく 好天気の中をすすめることができました。

いろいろなイベントを通して お祭りの本質的な趣旨が心に伝わってきたものと確信いたします。

いま 熊本では地震災害で多くの方々がつらい毎日を送っております。理事長の土地先生の仲間の医療関係者は 休む暇なく崩壊した医療機関の仮設で多くの市民のために奮闘しております。

今回バザー等の尊い収益金の一部を このホスピス祭りの”輝けいのち”の思いを込めて 熊本の医療チームに献金させていた

いただきました。少しでも早い復興を心から念じております。

このホスピス祭りの躍動感の余韻をそのまま 支援の会の活動に心をお寄せください。お祭りを通してかわりをいただいた皆様方に心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。



医療法人 どちペインクリニック
ホスピスを支援する市民の会

代表 吉田永正



第14回DPCホスピス祭り



2016年7月吉日

医療法人どちペインクリニックの
ホスピスを支援する市民の会 様

この度当地を襲った平成28年熊本地震に際しては、いち早く義捐金をいただきましたこと、心より感謝いたしております。

今回の震災にて全国みなさまからの支援を受け、事業所、そして職員を守ることが出来ております。心から感謝申し上げます。

ご依頼いただいております、領収書を同封しておりますのでよろしくご査収ください。どうもありがとうございました。

ホスピス祭りの収益から一部を熊本地震の被災地にて活動する
熊本県民主医療機関連合会に寄付させていただきました。

熊本県民主医療機関連合会
事務局長 木原 望

山本晴美さん

シンガーソングライター
みのぶジュニアコーラス理事長



初めて参加したホスピス祭りが終わり、予想のなかった感動に包まれていた。私は音楽というツールで「いのち」の在り方を見つめ、過去から学ぶ戦争をモチーフに「平和」を考えるきっかけとなるように、語り、歌をうたう。祭りの今年のテーマは「平和」だからとご指名をいただいた。「ホスピス」と「祭り」が、私の浅はかな考えでは不謹慎のようで、さらに、この場所で戦争の話を読むことへの不安のままに当日を迎えた。

診療所のいつもの待合に赤い椅子が並べられ、日常と違う空間の演出。準備のために、明らかに診療所の職員ではないだろう人々が闊歩し、明らかに診療所の職員であろう面々がかき氷を売っている。小さな屋台がぎっしり並び、まるで昭和の人情味たっぷりの縁日を思わす賑わい。敷地内に溢れる人々。私の音響を手伝ってくださるのは、オペ室に入る看護師。何？この空気感。おまけにお祭りの実行委員長がご住職。ホスピスと住職・・・目の前で繰り広げられる調和が不思議でたまらなかった。

私たちは生きてゆく生業の上での肩書きを持つが、その前に「人間」で、みんな同じように命を授かって生きている。このお祭りで汗をかいている人々は命と向かい合い、その輝きや、命の成す感動を知っている人たちであった。全員が無償のボランティアで、祭りのミッションがしっかりしているから、見事に調和しているのだ。



ちょうどその時期、母の三回忌を迎えたばかりで、ふとあの時を思い出した。母に意識がなく、最期が近いと納得せざるを得ない時、悲しみにくれないながらも医師に、母のたつての願いであった帰宅をお願いした。刻一刻と時間が過ぎていく中、やっと許可がおりて間に合った。しかも自宅の玄関に入る時、意識がないものと思っていた母が目を開け、うなずいた。庭が見えて一

番明るいリビングにベッドと酸素を用意しておいた。家族全員で、母と同じ部屋で普段と同じように食事をとり、聞こえていると信じて話しかける。私が知る限り父は今までの人生の中で一番優しい顔で母と向き合っていた。二日目に母が最後に私たちに見せてくれた姿・・・死は忌み嫌うものではなかった。

「いのち・平和」を伝えるライブ活動から、生きるという営みには、喜びだけでなく苦しみや悲しみ、生きづらさが共存し、その気持ちに寄り添った時、見つめる先には「いのち」の素晴らしさがあると感じている。

数年前、初めてホスピスでコンサートをした時、触れてはいけないものに触れるようで怖かったが、そこで向き合っている人たちは美しかった。健康な私にとって、病気は哀れむものでなく、命を慈しむものだを教えてくれた。それから表現者として「この瞬間をしっかりと生きること」が命や平和への対峙だと考えるようになった。

私は宇宙に輝く星も好きだが、人の営みのある家の窓からこぼれる小さな灯りが好きだ。そこを目指して歩く時の気持ちの先には安らぎがある。それぞれの灯り・・・ホスピスはそんな「灯り」なのかもしれない。この場所で平和を願い戦争を語ることは少しも場違いではなかった。さらに、この空間を満たす祭りの活気は、地球上の小さな平和の象徴のようであった。ここに参加させていただきありがとうございました。



歌語りコンサートを聴いて

藤原美紀さん

玉穂ふれあい診療所 看護師



みなさん、こんにちは。

私は、玉穂ふれあい診療所で外来看護師として働いております
藤原美紀と申します。

職員でもあり、支援の会の会員でもあります。このホスピス祭りには、ここ10年毎年家族で参加しており、我が家の年中行事の一つでもあります。さて今回のホスピス祭りは「輝けいのち 平和を守れ 未来につなぐ 笑顔の輪」をテーマに行われました。どのブースもボランティアを含む皆さんがそれぞれの命を輝かせ、参加者と一緒になった祭りでした。そのなかでも私は山本晴美さんの「歌語りコンサート 私は愛する人を守りたい」に大きな感動と感銘を受けました。私は戦争を知りません。もちろん私の家族も戦争を知りません。学生の頃、お年寄りやTV、本、旅行などで戦争について知り「二度としてはいけないことなんだ」と学んできました。山本さんのお話を聞く機会をいただき、聴き始めから子供、家族を大切に思う気持ちが高まり涙が止まりませんでした。

「子は母親から生まれる」私も母親として二人の子供を育てています。もし、今戦争が起きたら私は自分の子を守れるのか？守らなければいけない責任を強く感じる内容でした。週末、子供達から「遊ぼう！遊んで！」と言われても普段できない家事を優先してしまい、悲しい思いをさせてしまっていることを振り返りました。子供に申し訳ない気持ちで一杯になることもしばしばあります。家事にしても、子育てにしても、仕事にしても後悔だけはしたくないと思い、今できることを精一杯大切にして生きることを学びました。世界を見れば戦争のような出来事がたくさんあります。私達の住んでいる日本がいつまでも平和であることを日々願っています。

参加者の方の声

望月一司さん

アイセイ薬局国母店 薬剤師



毎年ホスピス祭りに参加させていただいております。

私がお祭りに参加させてもらったきっかけは、いえ、そもそも玉穂ふれあい診療所とお付き合いさせて頂くことになったのは、地域医療に密着して「いのち」に向き合っている病院・医師がいると聞いたからです。それをきっかけにアイセイ薬局の前身であるすみれ薬局に入社し、お祭りにも参加させてもらいました。

私事ですが、薬剤師になってから医療に携わる職業として「いのち」にどう向き合っていくのか、医療において薬剤師の置かれている立場で何ができるのか、大学を出てからずっと考えその答えが見つからずにおりました。人が聞けば簡単な話なのかもしれませんが。医師の指示のもとクスリをつくる、またクスリの管理をする、副作用・効果・飲み合わせのチェック・・・どれも僕らの仕事ではあると思います。

しかし、現実の実態が見えにくく、またあまりに対人・患者さんという面において何か物足りなく、それゆえにずっと悩んでおりました。

そんな時に「いのちとの向き合い方、医療の本質とは」そういったことを全て体現できている医師・病院に出会えたのです。それが医療法人どちペインクリニックでした。

それまでは何不自由なく、健康に生活しているとおぼろげながらに感じることはできませんでしたが、看取り医療や在宅医療の仕事を共にするなかで、実感としてやっと自分の中で捉えることができました。

ホスピス祭りへの参加は今年で6回目でしょうか。

スタッフの皆様の気配りそして、ボランティアの方々の熱意に毎回驚いております。職業柄たくさんの病院や医師とお付き合いをさせて頂いておりますが、こんなに地域の皆さんに愛されている病院をみたことがありません。ここまで来るのに院長・師長・スタッフの皆様方の様々なご苦労があったことを聞いております。その一員になれたこと、また参加できたことが大変うれしいと同時に誇らしく感じております。

最後になりましたが、いのちに寄り添う玉穂ふれあい診療所とホスピス祭りの末永い発展をお祈りし、また今後も一緒に働いていけたらと切に願っております。

ここにいてくれてありがとう

一緒にバンドをしている友人が玉穂ふれあい診療所で働いてなかったらこんなにホスピスについて知ることはなかったかもしれません。毎年開催している「ホスピス祭り」にその友人から誘われたのがきっかけでした。まず病院でのお祭りにびっくりしました。しかもホスピス!? 常識ならば「静かにしなさい」と言われる場所、その場所に地域の人や利用者さんの家族を沢山呼んで『賑やかにお祭りをしましょう』というのだからぶったまげたのです。中でも外でも賑やか、音楽は鳴るは、太鼓は叩くは、売り子の声はあちらこちらから聞こえるは、とにかくみんなが笑っている「なんじゃここはー」って感じでした。

そりゃーもうぶったまげたのですが関わっていくうちに命のど真ん中で働く人たちの眼差しや、寄り添う気持ちに圧倒され、感情的な部分やセンチメンタルな所を超えた明るさに触れ、僕自身のここまでの歩み全てが癒され、抱えていたものが輝き出した出会いでもありました。

僕は、父を14歳の時に亡くしその時のショックで母は精神病院へ入院することになりました。そして、25歳の時に妹を癌で亡くしました。今も母は精神病院にいますが母は夫も娘も亡くしたのだから「マトモでいる」ことの方が普通じゃないかもしれない。そう思うと、時間を作り、寄り添うことで、父や妹と一緒にいた時間も輝き出すんじゃないかと思っています。

ホスピス祭りをみていると、ここで看取ってもらった家族の方々がボランティアで手伝っていることを知ります。僕が母を大事にするように玉穂ふれあい診療所を大事にする人が沢山いるんだなと思いました。

だから、ホスピスは お母さんみたい

そして、ホスピス祭りは お母さんの子守唄みたい

やさしくて、つよくて、あったかくて、抱えているものも軽くなって

やさしい気持ちに包まれてゆっくりと眠れそう

僕は玉穂ふれあい診療所で働く人も集まる人も大好きです。顔を見ただけでわかるような気がするから。

ここにいてくれてありがとう、そんな気持ちでいっぱいになります。

どちペインクリニック玉穂ふれあい診療所に向けて

「輝け、いのち！」という歌を作りました。特に2番が好きです

『春になればレンゲが咲き 君の匂いまで光るようだ

抱えてきたことまでも 心いっぱい光るようだ

輝け！いのち！

玉穂ふれあい診療所 命に寄り添う歌がある』

会いたいという気持ちは 僕の生きる力

ここにいてくれてありがとう!!

岩崎けんいちさん

ミュージシャン



ホスピス祭り終了後、岩崎けんいちさんが上記の言葉に絵を添えて下さいました。とても愛の溢れるその絵をつくしんぼに折り込ませて頂きます。ぜひみなさん大切にしてください。